

## 岐阜県福祉サービス第三者評価事業評価結果表

平成31年4月1日改正

(平成31年4月1日適用)

### ①第三者評価機関名

NPO 法人ナルク岐阜福祉調査センター
---------------------

### ②施設・事業所情報

名称：岐阜県立サニーヒルズみずなみ		種別：障害者支援施設
代表者氏名：櫛田 龍宏		定員：入所 50人 生活介護 56人 短期入所 4人
所在地：岐阜県瑞浪市陶町猿爪 657-34		
TEL：0572-65-3322		メールアドレス:sunny@gifu-fukushi.jp
ホームページ： <a href="https://www.gifu-fukushi.jp">https://www.gifu-fukushi.jp</a>		
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：平成3年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 岐阜県福祉事業団		
職員数	常勤職員： 29人	非常勤職員 17人
専門職員	管理者 1人	
	サービス管理責任者 2人	
	生活支援員 17人	生活支援員 9人
	看護職員 5人	看護職員 1人
	作業療法士 1人	事務員 2人
	栄養士 1人	業務員 3人
	事務員 2人	医師 2人
主な設備	居室、機能訓練室、医務室、食堂、浴室、洗面所	
施設の種類	室数	備考
居室	28室	2人部屋：24室 1人部屋：2室 短期入所：2室
食堂	1室	
浴室	2室	一般浴室 特殊浴室 脱衣室
ユートピア	1室	共有スペース
相談室	1室	
医務室	1室	静養室・診察室・ナースルーム
機能訓練室	1室	
ワーカー室	1室	
便所	5	全洋式化
洗面所	3	

廊下幅	2.4m	
-----	------	--

### ③理念・基本方針（※転載）

- 理念 個々の人格と個性を尊重した「真心」のある支援
- 基本方針
  1. 「ノーマライゼーション」と「リハビリテーション」を基本に、ご利用者の権利を尊重し、お一人おひとりが明るく、楽しく、生きがいを持って生活していただけるよう、生活の質の向上を目指して支援します。
  2. 岐阜県福祉事業団独自の第三者機関「利用者の豊かな生活を目指す委員会」の意見を尊重し、ご利用者の「権利擁護」と「生活の質の向上」に努めます。
  3. 東濃圏域における障がい者（児）支援の拠点施設として地域福祉に貢献します。
  4. 積極的に地域交流を進め、地域に根ざした開かれた施設をめざします。

### ④施設・事業所の特徴的な取組（※評価機関において記入）

- 沿革・立地・環境
  - ・社会福祉法人岐阜県福祉事業団が受託運営する岐阜県立サニーヒルズみずなみは、平成3年4月1日身体障害者支援施設として設立された。現在男女合わせて48人が入所している。短期入所者は2人（定員4人）である。
  - ・施設は瑞浪市山間部の陶地区にあり、恵那市の明智地区と山岡地区に隣接している。道路を走ると多くのゴルフ場の看板が目につく自然豊かで静かな環境にある。また、陶地域住民とは合同で行事を行うなど、地域との交流もある。
  - ・建物は鉄筋コンクリート造1階建（2,533.31㎡）で、西フロア（男子）東フロア（女子）の生活棟がある。居室は2人部屋24室、1人部屋2室、短期入所2室で、2人部屋が中心となっている。
  - ・食堂は1室であるが、女子はコートピア室を利用するので、実質は2室となる。医務静養室3室（診察室、静養室、医務室）、浴槽は一般浴室のほか、特に障がいの重い方のための特殊浴槽室が設けられている。
  - ・利用者は、身体障害者手帳を所持している方が44人（1・2級44人）、療育手帳を所持している方が17人（Aの方16人、Bの方1人）と重度の障がい者が多く、ほとんど全員が車いすを必要とし、食事、入浴時に介助を必要とする利用者が多い。
  - ・更に、利用者の高齢化・重度化・虚弱化が進み、一人当たりの支援度が高くなり、支援に対する時間や労力が過重となっている。また、咀嚼や嚥下などの身体機能低下、高齢に伴う疾病等から医療依存度が高くなり、治療を要する方も多くなっている。
  - ・数年に及ぶコロナウイルス感染防止対策等、環境の激変の中、利用者が安心、安全に園生活を楽しんでいただくための職員の定数も十分とは言えず、職員の心身への負担が増加している。施設管理者はじめ職員の方々の日々の労苦がしのばれる。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和5年7月26日（契約日）～ 令和6年1月9日（評価結果確定日）
受審回数(前回の受審時期)	3回（平成29年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

●個別支援計画策定の仕組みが確立している。

- 確立されたアセスメント（傾聴・情報収集・分析）手法により適切なアセスメントにより、個別支援計画が作成（支援の実施過程の立案）されている。
- 年2回の見直しが行われている「サービス実行・モニタリング総括表」では、利用者のニーズを明確にし、ニーズに対応するための長期目標、短期目標、支援内容を定め、利用者の意見や要望を聞きながら、ニーズの充足状況をチェックし、今後の対応の検討、計画の変更の要否とその内容が詳細に記入されている。
- 生活支援実施書では、「医療・看護」、「精神的支援」、「食事」、「入浴」等10数項目に亘って（方法・留意点）が記入できる図表を使用している。また、人体図（前向き、後向き）に身体的状況（運動マヒ・感覚マヒ・痛み等の患部）を「☆」など記号で表示するなどの工夫がされている。

●リスクマネジメントへの取り組み

- 利用者の高齢化、虚弱化による事故防止のために、リスクマネジメント委員会が毎月開催され、ヒヤリハット報告書、報告された図例について、発生要因の分析、改善策・再発防止策を検討・実施する取り組みが行われている。職員には各フロア会議で周知されている。
- ヒヤリハット事例は4月9件、5月16件、6月11件、7月9件、8月8件、9月7件、半期で合計60件記録されている。
- 利用者の1日の生活状況を記録する「業務日誌」にも、ヒヤリハット事例が発生した場合には記録されている。
- 毎月、事故防止のための標語を決め、廊下の掲示板に大きく貼り出されている。12月の標語は「みんなで気づこう小さな異変、みんなで築こう笑顔のわ！輪！和！」であった。

●医療・介護体制

- 看護職員6人（常勤5人）、医師2人（非常勤）、診察室、医務室、静養室を配置し、利用者の健康維持、服薬の管理体制が整備されている。
- 作業療法士は常勤で、常時利用者の訓練、指導、援助が行われている。機能訓練室も広く、支援機材も豊富である。
- 福祉サービスの記録は、看護日誌、業務日誌、入所支援記録などにより組織における情報の流れが明確にされ、情報の分析や必要な情報が的確に届く仕組みが構成されている。
- 配薬・服薬マニュアル、誤薬時の対応マニュアルが整備され、職員必携にもファイルされており、常時確認できる。散剤（粉薬）は封の切り方が悪いと散逸する恐れがあ

るので、封の切り方について図で表示し食堂などに掲示している。

●利用者満足の上への取組み

(園内喫茶・外注喫茶)

- ・共有スペースの「ユートピア」は、大型の飲料自動販売機が2基設置され、利用者のくつろぎの場所となっている。日常生活では女子の食堂としても利用されているが、毎週水・日曜日には喫茶室になり、コーヒーなどが無料で提供されている。
- ・また、「外注喫茶」では地域の喫茶店、洋菓子店(「西田屋製菓店」・「喫茶スイトピー」)から軽食や和菓子などを外注し、好みのものを美味しく食べながらくつろぐことができる。

(園内買い物・市内買い物)

- ・毎週木曜日には地域の「みうらや」が園内に店を開き、お菓子などを販売している。また地域の販売業者である「よびすや」からは注文した商品を届けてもらっている。
- ・希望者には職員が付き添って、市内のスーパーでの買い物の支援をしている。

◇改善を求められる点

- ・第三者評価結果は良好であり、特に記述すべき大きな問題点はなかったが、利用者不明の「落葉」がヒヤリハットでも散見されるので、利用者が完全に服用したかどうかのチェックについては工夫され、不明の落葉の減少への更なる取組みを期待したい。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

私たちのサービス提供について、気付きとなる機会を得ることが出来たことに感謝します。受審を通してサニーヒルズの運営や支援についての課題に、貴重なご意見として受け止め、今後役に立っていきます。聞き取りの際に「がんばっていますね。」と声をかけていただき、うれしくなりました。また、ここ数年間の感染症がもたらした影響は大きく、現在に至るまで活動の多くが縮小化し、未だ以前のような活動レベルに至っておりません。その間にも利用者様の状況は複雑、多様化しており、ニーズに応えられる支援を目指すためには、職員の資質向上とともに心のケアも重要なことと考えます。良好であると評価いただいた項目についても現状に留まるのではなく、さらに工夫をこらし、地域に根ざした施設運営や、よりよいサービス提供を模索していきたいと思えます。

⑧第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。